



学校だより 本荘

Smile

2024

令和6年度 第32号
令和6年11月12日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

11月は心かがやけ月間です。「いのちの授業」を校長自ら行いました。



11月は「心かがやけ月間」です。毎年11月は、道徳的な心をさらに豊かにするための学びを深めています。この月間では、道徳的な規範やあいさつ、礼儀だけではなく、人への感謝の気持ちややさしさ、人権意識の高揚、仕事などに対するキャリア教育の観点等からも考えていく月間です。毎日の生活の中のいろいろなところに考える題材があるからです。昨年度の「心かがやけ月間」では校長講話で「仕事を一生懸命にすること」について話しました。今年度は、6年生が修学旅行に行ったこともあり、「平和といのち」について考えてみようと思った校長先生でした。

学校朝会の際、まず右上のこどもの写真を見せました。「何か気づいたことはないですか?」と問いました。いくつかの意見が出ましたが、それだけではわかりません。こどもの表情をよくみると何か伝わってくるのですが、ぱっとみただけではそうでしょう。お話の後半に「実は、この女の子はカメラマンさんにレンズを向けられたときに、『殺さないで』と両手をあげて降伏のポーズをした。」ということをお話しました。こんな小さいこどもが、どんな目にあっただから、そういうことになったのでしょうか?

この子の国では、戦争で多くの人が難民となって苦しみました。そんな中での出来事でした。美しかった建物はがれきの山となりました。にぎわっていた市場は誰もいない場所となりました。建物が崩れた間を多くの人が歩いてあてもなくさまよわなければなりません。世の中には「いのちを奪うもの」があるということ子どもたちに考えてもらいました。しかし、その中でも必死に生きているこどもたちもいます。仮設の学校でも学び、元気に生きようとしている人たちもいるのです。難民キャンプの中に生まれつき足の不自由なお父さんと女の子がいました。ひざから下がないのでプラスチックの筒と空き缶で義足の代わりにして一生懸命に生きていました。それを、ある戦場カメラマンが彼らのことを取材し報道しました。それを知った隣のお医者さんは、自分のお金を出して、自分の国まで呼んで、親子のために本物の義足を作ってくれました。(裏面へ)

戦場取材した勇気あるカメラマンが「事実を伝えた」ことで人々が動いたのです。世の中には「いのちを守る」ものもあるということを考えさせました。

今も世界では戦争で苦しんでいる人たちが大勢います。自分たちにできることはないということを問いかけました。そして、6年生が長崎での修学旅行で感動的な平和集会を行ったことを伝えました。自分が学んだことや知ったことを「伝える」ことで多くの人たちに平和に大切さを知ってもらえるのだということを示しました。

心かがやけ月間ですので、ぜひご家庭でも自分の心がさらに輝くようなお話ができればうれしいと思う校長先生です。次号はその6年生の修学旅行を取り上げたいと思います。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「11月学校朝会のお話」

11月学校朝会原稿

みなさんおはようございます。今日から11月。霜月です。昨年はお仕事のお話をしました。では、今からお話するのは・・・、何についてでしょうか。

今から授業をしたいと思います。さあ、何の授業でしょうか？さあ、この写真を見てください。何か言えますか？そうかあ、みんなよいところに気づきますね。

では、この子どもはいったい何をしているのでしょうか？予想をしながらお話を聞いてくださいね。ここはシリアという国です。この建物見てどう思いますか。そうだね、きれいだね。この建物は1年後、こうなりました。同じ場所ですよ。賑やかだった市場です。こうなりました。なぜだと思う。みんなが暮らしていたマンションもこうなったのです。なぜですか？シリアという国で起こった戦争の様子なのです。戦争が起こったことで、数多くの人が家や家族を失い、行く当てもなくさまよわなければならなくなったのです。この内戦は2011年から現在まで続いており、1960年以降の世界史において最も難民が発生した戦争とされています。

そこでは子どもたちがこんなくらしをしているのです。壊れた建物のがれきりの中で遊ぶ子どもです。彼らの学校です。壊れた学校の中でもみんな一生懸命に勉強をしています。横のテントは仮設の学校です。そこでも子どもたちは一生懸命に生きているのです。

先ほどの写真はね、シリアに行ったカメラマンさんがレンズを向けたら、鉄砲や武器と勘違いして、殺さないでと降伏のポーズをとってしまった写真なのです。統計によると、2011年3月のシリアの内乱勃発から2014年4月までに19万人がシリア内戦で死亡しましたが、その中には少なくとも8803人の児童が含まれ、その4分の1は10歳以下だということです。

この顔を忘れず、戦争がもたらす苦痛を心に刻んでほしいと思います。平和を守り、みんなと同じようなこの子どもたちにこれ以上恐怖を感じさせないようにしたいと思います。戦争は命を奪うものです。

では、この写真を見て気づきませんか？この女の子はマヤ・メルヒさんといいます。当時8歳です。生まれつき足がない状態でした。そのために、空き缶とプラスチックを使ってお父さんがつくってくれたのです。そのお父さんも生まれつき同じ病気で足がありませんでした。シリアでは、戦争中、苦しい状況でも一生懸命に生きて命をつないでいる人がいるのです。この義足は空き缶とプラスチックでできています。プラスチックは環境にはよい影響を与えないけれど、腐らず丈夫で強く、何より安いのでマヤさんたちには必要なものです。マヤさんの命をつないでいるのです。

しかし、隣のトルコという国がそんなマヤさんに救いの手を差し伸べてくれました。手作りの義足で歩くマヤさんの写真にひどく心を打たれたと言うお医者さんは、マヤさんとお父さんの義足の費用を肩代わりすることに決めたのです。お医者さんは「世界中の人たちから寄付の申し出がありました。しかしこの問題はもう片付いています。私が費用を負担します」と語りました。

そして、空き缶とプラスチックという環境にとってよくないもので、命をつないだことに感動していました。ゴミになるものが命を救い、希望を生み出したからです。戦争は命を奪うものですが、その中で必死に生きるこどもたちやマヤさん、その父さん、そして、お医者さんは必死に命を守ってきたのです。

私たちにできることはないですかね。いや、あるんですよ。それは伝えることです。

10月25日、26日、6年生は長崎に修学旅行に行き、自分たちが深めてきた平和学習をもとに平和集会を行ってきました。その時の様子です。まわりの人々を感動させる、涙させる立派な集会でした。校長先生は心が熱くなりっぱなしでした。すぐ響く美しい歌声で「折り鶴」も歌いました。この空間に響き渡っていました。最後はみんなで作った千羽鶴を捧げました。こんな素晴らしい修学旅行を行った6年生を校長先生は心から、心の底から誇りに思います。

今、この体育館にいるのは、校長先生をはじめ、みんな戦争を知らない人ばかりです。しかし、自分たちが学んだことを次の誰かに伝えることで、絶対に命は守れるのです。

今日の学校朝会は、「いのちの授業」でした。みなさん聞いてくれてありがとう。一緒に考えてくれて心から感謝していますよ。

11月は心かがやけ月間です。命を守り、思いやりの心で笑顔の本荘小にしましょう。